

萩にあしあと残そうよ

「雨続き&コロナ激増の夏。」



萩の夕日コレクション。8/4

令和3年(2021)
9月1日発行
—第31号—
発行：大塚好一

「日々の暮らし」

八月は、最初と最後こそ照りつける太陽と夏らしい暑さがありましたが、前線や雲が居座り雨が降る日が多かったです。そのため、楽しみにしていた海水浴もなかなか行くことができませんでした。

ワクチン接種は一日に二回目を終えました。微熱に頭痛・関節の痛みといった副反応が意外と強く、翌日が休業日で本場に助かりました。

いつもご心配いただく仕事の状況ですが、夏は需要期ということもあり、順調に出荷できましたが、お盆明け以降は急停止です。出勤状況も変わらず、週二日出て三日休業を続けています。

「あしあとノート」

◆万灯会（送り火）◆

萩藩主毛利家の菩提寺である二つの寺では、八月の盆に「萩・万灯会（まんとうえ）」が実施されます。一三日の迎え火は大照院、一五日の送り火は東光寺です。それぞれ、墓所に並ぶ五百を超える石灯籠に火が灯されます。

今年は迎え火が悪天候で中止になりましたが、一五日の送り火は二年ぶりに行われました。灯籠の窓に貼られた和紙から漏れるロウソクの灯りは温かく美しく、足を運んだ甲斐がありました。



3～11代の奇数代藩主夫妻が眠る墓所です。

◆妙円寺の月性の詩碑◆

柳井小唄（野口雨情）の舞台を巡った際に訪問した妙円寺と月性展示館。月性が二七歳の時、学業修行に旅立つ折に家の壁に記したという漢詩の碑が建っていました。



強い決意が感じられます。

男児立志出郷関
学若無成不復還
埋骨何期墳墓地
人間到处有青山

（訳文）男子が一旦志を立てて郷里を出るからには、もし学業が成就しないなら再び帰らない決意である。骨を埋めるのにどうして故郷の墓地に執着しようか。世の中には、どこへ行っても骨を埋める青々とした墓地があるではないか。

◆はぎマルシェ再び中止◆

八月二日に予定されていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となりました。しばらくイベントもなくなりそうです。

◆雨情の萩小唄が掲載！◆

本紙第二十九号で、史都萩を愛する会（事務局：萩博物館）の会報誌「新・史都萩」に投稿したとお伝えしましたが、実はその前に：というネタを隠していました。このほど発行された第七七号に「野口雨情の萩小唄」（本紙第六号）が掲載・発行されました。



文筆デビュー！

昨秋、博物館長にお渡ししていたところ、新年度の会報の内容を検討していた際に提案してくださったそうで、いきなり寄稿依頼が舞い込んだのでした。館長とは、前任が観光政策部次長だったことから面識がありました。やはりご縁あつてのことです。

発行から数日、記事を読んだ人から「お会いしたい」と声がかかりました。松陰の東北遊歴のルートをたどった経験があり「新鮮な視点に感激した。」と、色々なお話をしてくださいました。

◆友来たる喜び：瓦そば◆



今や山口名物の瓦そばです。

珍しく食べ物のお話です。熱々の瓦で焼けてパリパリになった茶そば。上には牛肉と錦糸卵と海苔、そして薬味のみみじおろしとレモンが乗っています。これをつゆにつけて味わう瓦そば。友人が萩に来てくれたおかげで、二人前を注文して食べることができました。やっぱり大瓦でなくちや。（道の駅萩往還にて）



友人は誰かな？

その後、萩往還の一部を車で巡り、最後に国登録有形文化財の「鹿背（かせ）隧道」へ行きました。長さ一八二メートルの石造洋風隧道です。照明がなく、コウモリが飛ぶ暗闇の中を、一人ずつ歩いて通り抜けてみました。

◆別府弁天池（美祢市）◆

美祢市秋芳町の厳島神社境内に、こんこんと湧く清らかな水を湛える別府弁天池があります。日本名水百選にも選ばれ、近隣はもとより遠方からも水を汲みに訪れる人が絶えないそうです。透明感もさることながら、含まれるミネラル分のためか、深い所では美しい青色に見えます。



近くには養鱒場や釣り堀もあり、多くの人が訪れます。

◆久しぶりの献血◆

市内ショッピングセンターの駐車場に移動献血車が来るという情報が入り、久しぶりに四〇〇mlの献血をしてきました。以前は歯の治療中で断念しましたが、歯科医に質問したところ「現在はメンテナンスだから、献血しても問題ない。」とお墨付きをもらえたのでした。

◆最終日の海水浴◆



今年も気持ちよく泳げました！ありがとう。

菊ヶ浜海水浴場の最終開場日となった八月二十九日は、空が広がり暑い一日となりました。天候不順が続き、一か月ぶりの海水浴です。昨年はイラ（クラゲ）に刺されましたが、この日はゆつたりと泳ぐことができました。いつもはスマホを自宅に置いて行きますが、行く夏を惜しみつつ自撮りしてきましたよ。



色白なワタシ？

結局、今夏の海水浴は七月に三回、八月に一回の計四回でした。コロナ禍でも開場し、ライフセイバーも駐在してくれて、安心して泳げたことに感謝です。

〔自由気ままな歌日記〕

会う人もまた会う人も萩の人
朝の走りを我は楽しむ

西方の雲が次第に茜色

彼方の町にも朝の訪れ

※当たり前のことですが、朝焼けは東の空が赤くなります。

その朝焼けが収まった頃、ふと西の空を見ると雲が赤く染まっているんですね。ああそうか、今は西の町の人々が朝焼けを眺めているのだと思いました。短い言葉でまとめるのは難しいものです。

（八月八日）

大雨のニュースがあれば
気遣いの連絡届く

ありがたさかな

（八月一三日）

盆明けて

体操帰りの子らと会う

走る時間を遅らすも善し

（八月一九日）

胸板ペタンコだねと

母は言う 鍛えちゃないが無駄もないのさ

（八月二十九日）

★今号は以下余白とします。

記事を埋めてから発行するのも良いと思いましたが、無理矢理ひねり出すこともできないようなので…。
どうぞ次号をお楽しみに！